

News Release

オートトランス方式ボリュームを採用した ソニックユーフォリア パッシブ型プリアンプ発売のご案内

このたび、オーディオリファレンスインクでは、アメリカのジェフサウンドバリュー社から生まれた、ハイエンドオーディオブランド ソニックユーフォリア のリファレンス・パッシブプリアンプPLCを今春よりいたします。

PLCは、パッシブラインコントローラー (Passive Line Controller) の頭文字から採られたモデル名であり、その名のとおり、トランジスター、真空管などを使用したアクティブ回路を持たない、ライン入力専用のプリアンプとなっています。

パッシブプリアンプやパッシブコントローラーは、入力切り替えのほかは、ソース機器から送られた信号を減衰させる単純なアッテネーターとして機能するもので、そのボリュームには通常、可変抵抗器や、アレー構成のディスクリット抵抗器が使われています。

これに対して、PLCはオートトランス (オートフォーマー、または単巻トランスとも呼ばれています) を採用。抵抗器を一切使わず、トランス巻線のタップを切り替えることにより、高音質のボリュームコントロールを可能にしたプリアンプです。

パッシブ型のS/Nの良さに加えて、オートトランス方式ならではのエネルギー・バランスの良さが十二分に生かされたモデルとなっており、ハイエンドオーディオシステムのリファレンスプリアンプとして、新しい選択肢を広げるものと確信します。



PLC-J パッシブプリアンプ

希望小売価格 262,500円(税込) シングルエンド仕様

希望小売価格 399,000円(税込) バランス仕様

シングルエンド仕様、バランス仕様の各モデルとも、シルバーとブラックの2タイプがあります。

写真は、ブラック仕上げのバランス仕様モデルです。

【PLCの主な特長】

オートトランス方式ボリューム採用のパッシブ型プリアンプ

2dB / 24ステップ・ボリュームコントロールノブ

- 1dB・ハーフステップスイッチ

シングルエンド仕様モデル：

4入力（RCAアンバランス4系統）

3出力（RCAアンバランス3系統、うち可変2系統、固定1系統）装備

バランス仕様モデル：

6入力（XLRバランス2系統、RCAアンバランス4系統）

3出力（XLRバランス2系統、RCAアンバランス1系統、いずれも可変）装備

アルミフロントパネル、ステンレスシャーシ採用

オートトランスは、単巻トランスとも呼ばれるとおり、1次巻線だけで構成されたトランスです。巻線の両端に電圧を入力すると、巻線の途中から引き出されたタップにはステップダウンされた電圧が出力されます。これとは逆に、巻線の途中のタップに電圧を入力すると、巻線の両端にはステップアップされた電圧が出力されます。

PLCは、この電圧変換の原理とともに、入力と出力で同一の巻線を共有するシンプルな構造をもつオートトランスをボリュームに採用しています。トランスはそれ自身、目新しいデバイスではありませんが、電圧が大きければ電流は小さく、電圧が小さければ電流は大きくと、入力側と出力側のトータルの電力をほぼ等しく保つことができます。

抵抗器を使用したアッテネーションでは、出力電圧が小さくなるほど信号損失が大きくなりますが、オートトランスを使用したアッテネーションでは、出力電圧が小さくなると出力電流が大きくなるため、信号損失はほとんど生じません。

したがって、オートトランスでは小音量時にも電流レベルが大きく、ドライブ能力が低下しにくいいため、パワーアンプとのインピーダンス整合にも優位に働き、パッシブプリアンプ、パッシブコントローラーで起こりがちな信号反射などの問題が少なくなっています。

こうしたメリットがありながら、オートトランス方式ボリュームが現在に至るまで少数にとどまっているのは、巻線から切り出されるタップの数が多く、これを切り替えるための機構づくりが難しく、量産には適さない手間のかかる組立が要求されるからです。

PLCでは、デテント式のボリュームコントロールノブとオートトランスを結ぶ配線、ほかにも入出力ラインの配線などを含め、実に60本以上（バランス仕様モデルでは140本以上）の銅リッツリード線が使われており、1本1本をハンドメイドで丁寧にハンダ付けしています。

これにより、PLCは2dB/24ステップのボリュームコントロールを実現。さらに、19ステップまでの各ステップで、レベルを1dB減衰させるハーフステップスイッチを装備。ノブとスイッチを合わせて、トータル43ステップのボリュームコントロールを可能にしています。

シャーシ内部は、L/Rチャンネル独立のオートトランス各1個（バランス仕様モデルは各2個）と、リアパネルの入出力端子、フロントパネルのスイッチ端子、そしてオートトランスを結ぶリード配線のみで、抵抗器やコンデンサーは一切使われていません。

シングルエンド仕様モデルでは、入力4系統、出力3系統を装備。出力3系統のうち、1系統は固定スルー出力となっており、他のプリアンプやレコーダーへの出力端子として利用できます。一方、バランス仕様モデルは、入力6系統、出力3系統を装備。うち、入力4系統、出力1系統はRCAピン・アンバランス端子となっており、バランス/アンバランス両方のソース機器、及びパワーアンプとの組み合わせが可能になっています。

また、PLCはハイエンドモデルにふさわしく、コンタクト性、耐久性ともに優れたハイグレードな端子、スイッチを採用するとともに、シャーシには高強度のステンレスを、フロントパネルには約12ミリ厚のアルミ切削パネルを使用しています。

【PLCの主な仕様】

アッテネーション	: 2dB (各ステップ)
ハーフステップスイッチ	: - 1dB
ボリューム位置	: 43 (24ステップ+19ハーフステップ)
電圧ゲイン	: 10dB相当
入力	: [シングルエンド仕様モデル] 4系統 (RCAアンバランス4系統) [バランス仕様モデル] 6系統 (XLRバランス2系統、RCAアンバランス4系統)
出力	: [シングルエンド仕様モデル] 3系統 (RCAアンバランス3系統、うち可変2系統、固定1系統) [バランス仕様モデル] 3系統 (XLRバランス2系統、RCAアンバランス1系統、いずれも可変)
大きさ	: 430 (W) × 90 (H) × 330 (D) mm
質量	: 6.3kg [シングルエンド仕様モデル] 7.7kg [バランス仕様モデル]

仕様は予告なく変更されることがありますので、あらかじめご了承ください。

[ソニックユーフォリアについて]

ソニックユーフォリアは、アメリカ・カリフォルニア州にあるジェフサウンドバリュー社のジェフ・ハグラールによって、2000年に設立されたハイエンド志向のオーディオブランドです。発足のきっかけとなったのは自作のオーディオケーブルで、その音の良さに惚れ、みずからのブランドとして商品化し、発売したのが始まりでした。その後、2002年になって、トランスを使ったアッテネーターというものに初めて出会い、ありふれた貧弱なパーツしか使っていないにも関わらず、その音の良さに驚くとともに、自分が作ればもっと素晴らしいアッテネーターになると確信。ハイグレードパーツを使いながら、オリジナル仕様のオートトランスを開発・設計。プロトタイプ的设计、製作、試聴を通じてよりいっそう自信を深め、2003年のサンフランシスコ・ステレオフィールショーに出展しました。以来、ハイファイオーディオ各誌からの高い評価を得るとともに、市場でのブランド認知を広めるに到っています。現在、ソニックユーフォリアの商品には、パッシブプリアンプPLCと数種のオーディオケーブルしかラインアップされていません。今後については、ターンテーブルに関していくつかのアイデア、構想を温めている一方、これと言う決まった商品を出す予定はなく、みずからのブランド・フィロソフィーとして、商品ジャンルはさまざまであっても、自信をもって薦められる価値ある商品のみを送り出す。その姿勢をこれからも貫いていくと、ジェフ・ハグラールは表明しています。

本リリースに関するお問い合わせは...

オーディオ リファレンス インク

東京都府中市西原町3-16-9 〒183-0046

TEL : 042-574-3185

FAX : 042-574-3186

E-mail : audioref@d6.dion.ne.jp

www.audiorefer.com